

平成22年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会 「羽咋区域」 議事概要

1. 実施日 平成22年7月23日(金曜日) 13:00~15:00
2. 場所 農林水産省農村振興局第4会議室
3. 出席者 技術検討会委員 青海 万里子 生活協同組合コープいしかわ常任理事
" 浅野 耕太 京都大学大学院教授
" 安藤 光義 東京大学大学院准教授
" 山路 永司 東京大学大学院教授
(敬称略、五十音順)
- 事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
(独)森林総合研究所森林農地整備センター審議役 他

4. 技術検討会の概要

(1) 委員長選出

委員長に山路委員を選出した。

(2) 事後評価(案)について事務局より説明。

(3) 意見・指摘等

技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめられた。

- ① 区画整理および暗渠排水の整備において、営農や維持管理に配慮した計画としたことにより、稲作の効率化、作物選択の拡大が図られている。未整備田のほ場整備によって、耕作の維持にも貢献している。
- ② 農業用道路の整備においては、従来の道路網に加え一本の縦線を通した良い路線選定であり、その結果、利用率も高い。農業用道路の整備を受けて、沿線にはJAの集出荷施設や直売所が立地しており、集荷・販売の効率は高まっている。また、個別農家からみても、ほ場や集出荷施設へのアクセスが向上しており、本道路の効果は大きいと考えられる。
- ③ 環境への配慮の面では、邑知淵を横断する橋梁の新設に際し、ハクチョウの生態を考慮した設計を行っている。本配慮によりハクチョウの飛来環境が維持されている。
- ④ 本事業が地域のイノベーションを生み出す環境を整備した点を特に評価したい。例えば、農業用道路の整備にともない直売所ができ、産直の場の創出につながったことは、新しい販路や小規模経営農家でも現金収入を得る道を開き、地域に対して新たな農業の可能性をつくり出している。

以上のとおり、事業効果が発現されていることが確認された。

- ⑤ なお、農業用道路の利用率が高いことにより、交通事故が増加する危険性も有しており、安全対策の更なる検討が必要と考えられる。また、農業用道路の整備というハード面の成果を、農業の後継者対策、高齢化が進んでいる集落への生活支援などソフト面へ繋げていくことが重要であり、関係団体の今後の取り組みに期待したい。

- ⑥ 今後、本地域農業のさらなる発展のため、地域農産物の付加価値向上を目指した県・市
町・JA等の関係機関の新たな連携の構築が望まれる。